



# 横浜陶芸友の会だより

第 191 号  
令和 6 年  
11 月 15 日発行

## 「イベントの報告」

横浜陶芸友の会 会長 鍋島 弘義

前回「保土ヶ谷小」の事を紹介しましたが、10月13日に「保土ヶ谷宿場祭り」が行われ、総合学習の一環として生徒が参加していました。



写真のように生徒は学校の半纏を着てお客様に手ロクロの皿作りを指導していました。お客様もたくさん来てくれ、楽しそうに活動していました。今年度の「作品展」に生徒の作品も展示されますので、会場も少し賑わいそうです。

可愛い小学3年生の子供達も今年度の「作品展」に来てくれそうです。

今年も関東学院大学から声がかかり「関キヤンFes.」に会として参加しました。私は、私用で参加できませんでしたが手伝いを含め8名の会員が参加してくれました。



「宿場祭り」の様子

今年度は一般の参加者による「陶芸教室」も行われたため、忙しかった事でしょう。お疲れ様でした。

「陶芸教室」への参加者は大人1名と子供4名(実質保護者を含め8名)でした。

当初予定していた参加者数より少なく、又直前に予算が減るなど色々ありましたが、参加者の感想は、「おもしろかった。」「難しかった。」「陶芸がこんなに面白いものとは思わなかった。」と、好評だったそうです。

来年は11月1日(土) 2日(日)に開催する予定だそうです。

高齢化や会員数が減る中でのイベントへの参加も難しくなりそうですね。

私としては、皆様が楽しんで参加が出来る活動が可能ならば続けていきたいのですが。

## 「役員会」報告

10月27日(日) 15時より、会長、副会長、各役員8名の出席で話し合いました。

## 《 議題 》

## 【 各部からの報告 】

### ①総務部

- 関東学院大学での「展示会」について
- 次回2月の役員会で「総会」を4月役員会後に行う事を提案する

### 会計より

- 「焼成会」の会計監査を行う
- 次回(2月)の役員会で「作品展会計監査」をお願いする

- 各部の会計報告と会計監査を次回の役員会で

- 会報の11月号は量が多いのでレターパックで送付する

- 4月の役員会で、決算・予算を検討し「総会」に向けての資料を作る

### 広報より

- 会報の発行(11月中旬 予定)

※「作品展案内」とハガキを同封する

- 会期中、陶陶さんの漫画を30話掲示する

### 事業部より

- 「第45回作品展の案内」について

※(詳細は事業部よりの欄を参照)

- 案内ハガキの枚数 600枚印刷

- 保土ヶ谷小学校生徒作品を展示する

### 専修部より

- 「焼成会」の報告・会計報告

※(詳細は専修部よりの欄を参照)

## 【 次回の「役員会」予定 】

2月8日(土) 15時から

(場所) 杉田地区センター

### 「2024 年度 秋の焼成会」報告

専修部

今年度の「焼成会」も、井上部長のご厚意により部長宅の「ムサシ陶芸工房」にて

- 9月29日(日) 10時から 受付
- 10月3日(木) 10時から 素焼き
- 10月6日(日) 10時から 釉薬掛け
- 10月7日(月) 16時から第一回本焼き
- 10月11日(金) 16時から第二回本焼き
- 10月20日(日) 作品引渡し

の日程で無事に終えることが出来ました。

参加人数	9名
作品数	39点
作品重量	12.76 kg



#### 「秋の焼成会」に参加して

深川貴子

「焼成会」に参加するようになって今回で3回目。1回目は関内の技能文化会館でした。釉薬のかけ方などおぼつかない私でしたが、たくさん作品を持っていき、皆さんのやり方を見ながら、いろいろ教えていただきながら、釉薬の流しかけなどドキドキしながらやりました。

2回目からは会員の井上さん宅で行われま

した。ここは、素敵な見本が沢山あって、釉薬の種類も多いので、「こんな風になりたい」とイメージを膨らませることが出来ます。ああしたい、こうしたいの注文に井上さんが釉薬を準備してくださり、掛け方の順番なども教えてくださり、私の不慣れた作業を温かく見守ってくださいました。

いつも作品が仕上がると、思っていた以上にきれいな色が出ていて、うれしい気持ちになります。そしてまた、諸先輩方の素晴らしい作品を見て、もっとこうしたいああしたいの欲望がわいてきて自分の反省点も見えてきます。今回も私なりにあじのある作品ができました。今回の、木の葉天目の焼成は、葉っぱの柄は残念ながら出ませんでした。またの機会に挑戦したいです。

来年もまた楽しみです。



完成した作品



木の葉天目に挑戦

### ○第45回「作品展」のお知らせ

事業部より

【会期】令和7年1月14日(火)～19日(日)

【会場】かなつくホール A室

(JR東神奈川駅 下車3分)

【特設コーナー】「角皿」※大きさ自由

【申し込み締切り】令和7年1月7日(火)

【申し込み先】 ※同封の要項参照

※「出展作品一覧」も同封してください

※申し込み方法と「作品展」の詳細については、会報に同封の要項をお読みください。

【受付時間】

令和7年1月14日(火) 11時～

※開場は 13時から

【出展料】(一単位) 2千円 幅45cm

※2単位でテーブル半分くらいの広さ

【搬出】 1月19日(日) 16時より

【会場当番】

◎例年通り「協力」お願いいたします。

☆新型コロナウイルス感染防止のため

昨年度と同様に気を付けましょう。

#### 【懇親会】

日時…令和7年1月16日(木)17時より

場所…居酒屋「木曾」会費は五千円前後

※陶芸談義に花を咲かせましょう。

## R6/11/2～3 関東学院文化祭（陶芸）報告

先日は関東学院文化祭において皆様のご協力を頂き有難うございました。

簡単ではありますが展示会・陶芸教室の結果をご報告いたします。

(鈴木貴久)

展示・陶芸教室企画：黒田（関学庶務課課長）・鍋島会長・佐々木まどか  
 展示会場：関キャン2階 EV ホール 展示時間：11月2日 13:00～17:00/11月3日 11:00～17:00  
 展示作品参加・会場当番：鈴木（和）（貴）・高橋・松崎・本橋・吉川・吉村（7名）  
 展示会協力：井上（展示用布貸与）・深川（会場当番）

陶芸教室指導：佐々木・鈴木（和）（貴）・高橋

陶芸教室：技能文化会館 11月2日（10:30～12:30）ロクロ形成・手ひねり

技能文化会館 11月3日（10:30～12:30）高台削り・白化粧生掛け

受講者：大人 1/子供 4（実質保護者含め 8人） 作品総数：31個 7.04kg

### <展示会反省>

○同じフロアの「大ホール」で催し物を開催している時間帯は観客多いが、その他の時間は観客数が少なかった。（昨年と同じ）

（原因）

- ・事前に宣伝をしていない、陶芸に興味のある人が集まる場所でない。
- ・付近に凶抜けて料金の高いパーキングが有るので注意が必要。

### <陶芸教室反省>

- ・ロクロ成型よりも削りの時間が足りなかった。（薄く成型出来ていないので）
- ・子供が 4 名参加したので個性的な手ひねり作品が出来た。
- ・受講者数が少なかった為、予算の削減があり「直前」に計画変更が出た。技文窯をキャンセルして貫い、代替え窯が有ったので中止を避けることが出来た。
- ・企画内容の打ち合わせと陶芸に関する知識不足。（今後の改善意欲が有や否や）
- ・作陶時間の延長が必要だった。（2 時間では足りない）
- ・会場当番の人数化粧土生掛け作品を運ぶのは緊張した。（結果は無事）

### <参加者の感想>

- ・おもしろかった
- ・むつかしかった
- ・陶芸がこんなに面白いものだとは思わなかった

#### 陶芸教室（横浜陶芸友の会）

ろくろを使って、茶わんや湯呑みを作ろう！

11月2日（土）、3日（日）10:30～12:30

横浜技能文化会館 602工芸研修室（6階）

参加費：2日間で3,000円 定員：15名 ※先着順

持ち物：エプロン（使い捨てでも可）、雑巾 ※汚れてもよい服装

参加条件：①2日間続けて参加できること。

②完成した作品を大学まで取りに来ることができること



参加申込はこちら！



<関東学院大学よりのメールです>

お世話になります。黒田です。

「関キャン fes. 2024」に関しては、ご協力いただき、ありがとうございました。

おかげさまで、大きなトラブルや事故もなく、開催することができました。

初日はあいにくの悪天候でしたが、両日とも多くの方にご来場いただきました。

全体の来場者数は、初日 800 名、2 日目 3,700 名で報告させていただきます。

陶芸教室も大変好評でした。

いろいろとご負担をおかけして、申し訳ありませんでした。

2025 年は、11 月 1 日（土）、2 日（日）に開催する予定です。

今回の反省点を活かしつつ、調整していきます。

友の会のみなさまにもよろしくお伝えください。

引き続き、よろしくお願ひします。



完成した参加者の作品

1「淡青松灰大鉢」 淡青松灰釉(自作釉)  
+ディオブサイド釉吹付 酸化焼成



2「淡青松灰鉢」 淡青松灰釉(自作釉)  
+ディオブサイド釉吹付 酸化焼成

今回のテーマは、2種類の釉薬の掛け分けをメインに考えて作っています。

1「淡青松灰大鉢」 2「淡青松灰鉢」  
この青い釉薬は私が作った物だが元はルリ釉だった。ルリ釉は濃いから飽きてきて、呉須の色にならないかと少し薄めた。呉須に近い色が出せたが、それも飽きちゃってそれに松灰釉をブレンドした。そうしたらこの色になった。

淡い青で松灰を入れてるから「淡青松灰釉」とした。

この白い点々はディオブサイド釉と言って昔、本で見えて作ってあった。それを霧吹きで吹いたもの。さらに言うと、この細かい点々は雲母をパラパラと降り掛けたものです。

3「チタン黄茶窯変大鉢」 チタン黄茶窯変釉  
(自作釉)+松灰釉の粉末振り掛け 還元焼成



4「チタン黄茶窯変大鉢」  
チタン黄茶窯変釉(自作釉) 還元焼成

3「チタン黄茶窯変大鉢」

4「チタン黄茶窯変大鉢」

昨年、P 釉を2度焼いて出したが今年はその釉を2度焼くところを1度でやるため倍の時間で焼いた。チタンが入っているのと黄色っぽいので「チタン黄茶窯変」と名前を付けた。4の溜まっている部分は松灰釉を乾燥させた粉を掛けた。本当は緑色になるのを狙ったのだが、元の釉薬との相性なのか緑色にならず茶色になった。

5「粉引松灰釉大鉢」 土:赤土+化粧土(粉引)  
松灰釉+松灰釉の粉末振り掛け 還元焼成



6「掛け分け大鉢」 ススキ釉+亀甲貫入釉  
粉末振り掛け 還元焼成

5「粉引松灰釉大鉢」 6「掛け分け大鉢」

この作品の基本は粉引き。白化粧土を塗って松灰釉を掛けて先ほどの粉になった松灰釉をパラパラとかけた。本当はもうちょっと全体が緑色になることを狙ったが流れて溜まったところが濃い緑色になった。

6 もススキ釉だけじゃ面白くないので亀甲貫入釉を粉末で買ったので、それを粉でパラパラとかけた。1240℃で焼いたがきれいに溶けた。

7「掛け分け中鉢」

外側はトルコマット釉を掛けて内側は青白交趾釉を掛けて青白交趾釉だけだと青く溜まったようにならないので柄杓で継ぎ足してかけてある。そうするとこのような綺麗な青の貫入が入ったものになる。そもそも交趾釉はガラス釉なので貫入が入る。

裏側の写真が無いが、茶色のきれいな線が入っていた。これはトルコマット釉と青白交趾釉の境目。実はこれは少し焼けてない状態があったので二度焼いている。これじゃ、もう一度焼くか。というので焼いたらこの線が出てきた。なぜ出たかはよくわからない。

7「掛け分け中鉢」  
青白交趾釉(内側)+  
トルコマット釉(外側)掛け分け  
酸化焼成

今年の井上さんの実験は「釉薬の掛け分け」でした。釉薬を薄めたり、粉にして降り掛けたりと、思いもかけない方法で挑戦されていました。

次回は、何が出てくるか楽しみです。(鍋島)



今年の作品は、土笛以外は、ガラス釉を使った物を集めてみました。

「第44回作品展」の作品 川島幸子



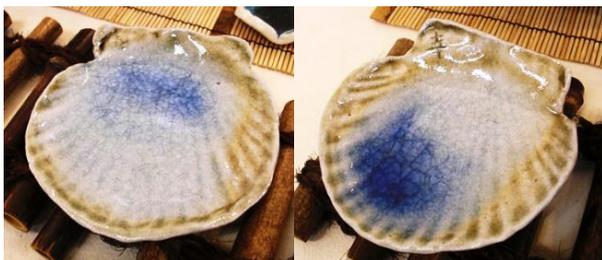
「大皿」 信楽赤 織部釉 ガラス釉 電気窯  
「土笛(6点)」 信楽土 絵の具 透明釉 灯油

取っ手がとても上手にできているこの大皿は、土が赤なので織部釉を掛けたらこのように濃い緑になりました。その上に透明釉を掛けて何種類かのガラスを入れてあります。底の周りが白いの透明釉の影響だと思えます。土笛は見本をいただいたので作ってみました。もう少し鳴るように挑戦してみたい。



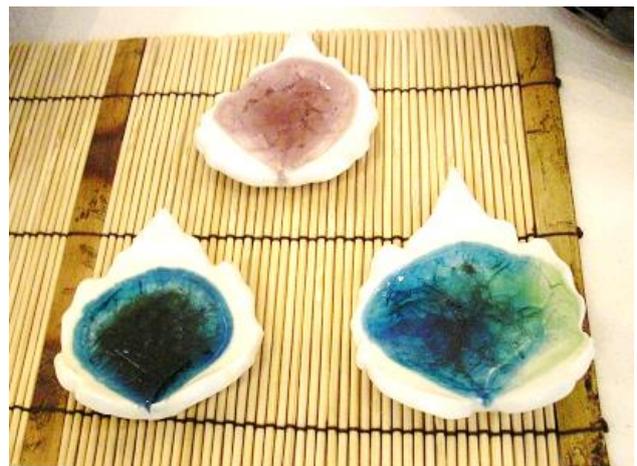
「大皿」 益子赤 粉引象嵌 飴釉 ガラス釉 灯油窯

湖で泳いでいる鳥の作品も、まず粉引象嵌をして縁に飴釉を掛けて焼き、再度、青いガラス釉を入れて焼きました。土笛で鳥を作ったので浮かべてみました。ガラスを入れる前は、ちょっとしまらない作品だったのですが、まとまりました。



「貝皿(2点)」 信楽土 ガラス釉 穴窯焼き締め

貝の形を焼締めをして、その後透明と青のガラス釉を入れて焼いた。溶けた形が、たまたまこの様なグラデーションのきれいな色になった。



「箸置き(3点)」 信楽土 ガラス釉 透明釉 灯油窯

これはもう日常で使っている箸置きです。それぞれ違った色ですが、これもガラスです。ガラスも色々な色があって今回は、このガラスを使った作品をテーマにしました。

色とりどりのガラス釉を使った作品はとても美しくできていました。テーマを決めて作品をまとめるのもいいですね。見習わなくちゃ。(鍋島)

# 陶陶さん

第 113 号

あかほし



ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

**横浜陶芸友の会だより**  
**第 191 号**  
 (令和 6 年 11 月 15 日発行)  
 (発行人) 横浜陶芸友の会

長い間専修部で活躍され、「作品展」でも陶画・ガラス絵・人形など素晴らしい作品を展示されていた逢坂博樹様から、ご丁寧な「退会届」が届きました。とても残念ですが皆様にもお読みいただきたく原文のまま掲載いたしました。

令和 6 年 10 月

横浜陶芸友の会  
 会長 鍋島 弘義 殿  
 会員 各位 殿

逢坂 博樹

### 退会願

私、逢坂博樹は今年度末をもって横浜陶芸友の会を退会させて頂きたくお願い申し上げます。  
 入会させて頂き十余年が経ちました。この間皆様方には暖かく接していただく他、作品発表会や沼津の穴窯のお誘いなど貴重な体験の他、楽しい思い出がたくさん出来ました。  
 心より御礼申し上げます。  
 私事ですが、三年前に大病を患い、以後も二度の入院を繰り返すなど体力も大きく落ち込んでまいりました。  
 今年の新春作品発表会以降は作陶活動も出来ず、陶芸に関する機材なども全て処分するに至りました。  
 残念ですが致し方ありません。  
 この様な状況にあり、真に勝手ではありますが退会させて頂く次第です。  
 関東学院の大学祭での作品展示・陶芸教室、新春の作品発表会など盛大になれることをお祈りするとともに、今後の会の益々のご発展をお祈り申し上げます。  
 永きに亘りご指導いただき誠に有難うございました。

以上

### 【編集後記】

・また一人、この会を支えてくれていた方が会を去ることになりました。  
 とても残念ですが、病気では仕方がありませんね。  
 今まで本当にありがとうございました。  
 ・今回の「関キャン fes.」では「陶芸教室」も行うことになりました。  
 参加者も少なかつたようですが粘土遊びの楽しさは味わってもらえたようでした。  
 関わっていただいた皆様ありがとうございました。  
 来年は 11 月 1 日・2 日と日程が決まっているようなので、そのつもりで準備をしておきましょう。  
 ・一月は「作品展」です。  
 皆様よろしくお願いたします。

鍋島弘義